

2020年度業務実績報告書

提出日 2021年 1月 6日

1. 職名・氏名 助教 金粕 仁美2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井県立大学、授与年 2016年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 小児看護学（2単位 毎年開講） 学部2年次生（2015年～）
②内容・ねらい（自由記述） 様々な発達段階や健康障害と、その段階にある子どもの適切な看護を行うための基本となる考え方や看護技術について学ぶことをねらいとしている。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 小児看護に必要な考え方と技術の使い方、活かし方を身につけるために、科学的看護論を基盤に典型例による看護過程の展開、及び小児看護技術演習の2部構成で展開している。他人との認識の突き合わせを行えるように、グループワークの時間を多く取り入れている。前期リモート授業であったため、バイタルサイン測定や身体測定などの技術演習は小児看護学実習の学内実習に行った。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 小児看護実習（2単位 毎年開講） 学部3年次生（2015年～）
②内容・ねらい 子どもの成長発達や健康レベルに応じた看護を実践できる能力を修得することを目的としている。また、臨地実習を自己の看護実践能力を鍛える学習過程と位置づけ、各自が課題意識を持って主体的に取り組むことを目指している。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 COVID-19の流行に伴い、実習施設を減らしたり学内実習日を増やしたりするなどの工夫を行った。保育園実習は、自己学習と実習指導者によるリモート講義に変更した。また、病院または施設実習に関しては、事前に模擬事例の展開や技術演習をおこなうなどの工夫を行った。 学生が、子どもの成長発達及び健康障害が子どもの身体・ところ・社会関係に及ぼす影響を理解し、より健康に育まれるよう子どものもてる力を活かしながら看護を実践し、評価する看護実践能力の修得ができるように、個別指導やグループカンファレンスを取り入れている。また、学生が各々の課題意識をもって主体的に取り組めるように、実習前の自己目標の設定と実習後の自己評価を行っている。2016年より、適宜、実習病棟の臨床指導者と学生指導の振り返りを実施している。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 小児看護発展セミナー（2単位 毎年開講） 学部4年次生（2018年～）
②内容・ねらい 選択したテーマに関する文献検討を行い、調査の目的を明確にできる。調査時は倫理的配慮を履行しつつ、必要な情報収集をすることができる。各自の調査内容をグループメンバーに伝えるようにプレゼンテーションできる。ディスカッションを通して選択したテーマについて内容を深めることができる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 「子どもの成長・発達と看護」というテーマを設定しているが、学生が主体的に取り組むことができるように、細かな調査目的は学生が選択できるようにしている。今年度は、それぞれの学生が医療的ケアに関するテーマを設定し、文献検討やリモートでのプレゼンテーション・

ディスカッションを行い、学びを深められるように工夫した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
基礎看護学実習Ⅱ（2単位 毎年開講） 学部2年次生（2015年～）

②内容・ねらい
対象の個別に則した看護を認識し、計画的に看護を実践、評価するという看護過程を展開するための基本的能力を修得することを目的としている。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
前期がリモート授業であり技術演習が行えていなかったため、血圧・脈拍・体温測定に関しては実習初日に実習施設内で技術演習を行うなど工夫した。看護過程の展開に関しては、学生が学内で学んだ知識や技術等を基に、対象の個別性に合わせて、アセスメント・看護問題の明確化・看護計画の立案・実施・評価できるよう、個別指導やグループカンファレンスを取り入れている。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
卒業研究（3単位 毎年開講） 学部4年次生（2017年度～）

②内容・ねらい
自ら探求する態度と、研究能力の基礎を身につけることを目的としている。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
今年度は文献研究を行った。グループで文献検討や計画検討をおこないながら、研究方法の学習や研究課題の明確化ができるように支援している。研究計画書作成後は、学生が問題なく分析や論文執筆をすすめられるよう個別にメールやリモート面談などで指導をおこなった。また、他の学生との意見交換ができるように中間発表会を実施した。論文執筆後、小児領域の論文集を作成し、リモートでの研究発表会を行った。

(2)その他の教育活動

・バドミントン部顧問（2018年～）

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0本】
②学術論文（査読あり）	【0本】
③その他論文（査読なし）	【0本】
④学会発表等	【3件】
<p>1. 幼児後期の子どもの歯磨き習慣と仕上げ磨きの実態、白崎友莉華、<u>金粕仁美</u>、赤川晴美、第64回福井県小児保健協会学術集会（2020年2月、福井）</p> <p>*2. 妊娠期の母親の不安・抑うつ症状と子どもの在胎週数・出生体重との関連、<u>金粕仁美</u>、岡野尚子、渡邊浩子、第34回日本助産学会学術集会（2020年3月、オンライン）</p> <p>3. 術中心停止により低酸素脳症至った児の経過とその母親の心理的プロセス、吉田輝実、橋本涼香、井澤沙輝、福田清美、<u>金粕仁美</u>、日本小児看護学会第30回学術集会（2020年9月、オンライン）</p>	
⑤その他の公表実績	【1本】
<p>*1. The Impact of Maternal Prenatal Depressive Symptoms and Anxiety on Infant Birth Weight in Japanese Primiparous Women, International Seminar - International sharing on midwifery care education and regulation series 2 - , Department of midwifery Jakarta III Health polytechnic ministry of health Indonesia. (2020年8月、オンライン)</p>	
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】	
・2018～2020年度 科学研究費助成基金若手研究 研究代表者 260万円	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
・日本看護研究学会近畿・北陸地方会 広報委員会、ニュースレター担当（2018～）	

5. 地域・社会貢献活動

<ul style="list-style-type: none">・福井県小児糖尿病サマーキャンプ（2016年～現在に至る）・福井県看護協会、看護基礎教育検討委員会（2019年～現在に至る）・Blanchard Valley Health System 院内研修会講師 “Maternal and child health care in Japan”, (Blanchard Valley Hospital, 2020年2月27日)・国際認定ラクテーションコンサルタント（認定2012年、2017年）・新生児蘇生法「一次」インストラクター（認定2015年、2020年）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
<ul style="list-style-type: none">・フィンドレー大学学国際交流 WG：メンバー（2016年～現在に至る）・実習検討委員会：委員（2016年～現在に至る）・3年生学年副担任（2020年）・卒業研究係（2020年）
(3)学内行事への参加
<ul style="list-style-type: none">・フィンドレー大学看護短期研修参加（2020年2月16日～3月2日）・入試説明会（敦賀気比高校、敦賀高校、2020年7月15日）
(4)その他、自発的活動など